

アブラムシ類

ワタアブラムシ cotton aphid, melon aphid (*Aphis gossypii*)

キクヒメヒゲナガアブラムシ

chrysanthemum aphid (*Macrosiphoniella sanborni*)



生長点に寄生している様子



ワタアブラムシ



キクヒメヒゲナガアブラムシ

【発生生態と発生条件】

初発時に葉裏に寄生することが多いが、多発すると新芽や葉裏などに群生し、排出物によりすす病を併発する。開花初期にも発生しやすく、花弁の中に潜り込んで、出荷後の花で多発し、吸汁害で品質低下する場合もある。夏に寄生が多くなり、特に降雨が少なく乾燥した気象条件で多発しやすい。露地では6月中旬から寄生がみられ、7月上旬に寄生量が多くなる（6～8月調査）。

ワタアブラムシは、黒、黄、緑など体色に変化が多い。初発時は葉裏に寄生することが多いので見落とさないようにする。キクヒメヒゲナガアブラムシは赤褐色をしており主に新芽付近の茎に群生する。